

2018年度（平成30年度）事業計画

（2018年4月1日から2019年3月31日まで）

1. はじめに

1. 2018年度は、第5次中期計画の初年度でもあり、大きな発展を期待する年である。
2. 政府経済見通し（4月閣議）は「景気は緩やかに回復している。」と現状を認識し、先行きについて「雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。」としており、景気の回復の期待を明記されているが、「海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。」も指摘している。
3. 当工業会を取り巻く環境においては、新設住宅着工などが微減になっているが、2017年度の工業会出荷金額は、年間で987.9億円（対前年比104.7%）の出荷金額となった。
2018年度は、経済の好循環を、持続的な成長路線に結びつけ、戦後最大の「名目GDP600兆円」の実現を目指す安倍政権のアベノミクスの第三弾となる「未来投資計画2017」などによる個人消費、設備投資などの増加を期待するところである。こうした中、当工業会の扱い品目である太陽光発電対応住宅盤や、感震機能付住宅盤、電気自動車充電設備、高機能配線器具類の伸びを期待したいが、2018年度の出荷金額は対前年比で、点滅器105.8%、接続器103.7%、住宅盤99.6%、その他を含む合計で103.3%、絶対額で1020.1億円と推定している。

2018年度（2018年4月～2019年3月）出荷金額予測（2018年5月時点予測）

	上期 (%)	下期 (%)	年度 (%)
点滅器	101.8	109.4	105.8
接続器	101.5	106.0	103.7
開閉器	97.6	99.1	98.4
住宅用分電盤	97.7	101.4	99.6
EV盤	116.2	103.6	111.0
信号・情報機器	100.2	99.6	99.9
総額	100.8	105.7	103.3

4. 第5次中期計画の重点テーマを中心に活動していく。特に、「新規分野開拓活動」を積極的に推進していく。そのため、「配線システム」の名にふさわしい新たな事業分野の拡大を指向する。長い歴史のある配線器具・住宅盤の強みを活かし、システム思考することで、お客様へ新たな満足をお届ける分野を捜すため、専門委員会を横断して技術委員会などの傘下に設立したWGを中心に日配工でできる提案を検討・推進する。

2. 最重点課題

第5次中期計画5大活動テーマの推進

- 1) 配線システムからの火災事故を撲滅する「安全品質の追及活動」
- 2) 交換リニューアル市場を構築する「安全・点検リニューアル活動」
- 3) 低炭素社会を配線システムで実現する「環境対応推進活動」
- 4) 新しい配線システムの標準化で安心を造りだす「標準化推進活動」
- 5) 新しい分野の市場を開拓する「新規分野開拓活動」

3. 重点項目 (定款順)

1. 配線システム及び配線器具に関する生産、流通等の調査及び研究
 - ・出荷統計調査（接地極付きコンセント含む）、需要動向・流通動向の早期集計
2. 配線システム及び配線器具に関する技術の調査及び研究
 - ・技術動向、技術課題等に関する調査及び研究
3. 配線システム及び配線器具に関する情報の収集及び提供
 - ・市場動向、環境問題等に関する情報収集及び提供
4. 配線システム及び配線器具に関する普及及び啓発
 - ・日配工の提案する製品の普及と安全点検など使用者への啓発
5. 配線システム及び配線器具に関する規格の立案及び推進
 - ・各種規格作成委員会活動の推進と取り纏め
6. 配線システム及び配線器具に関する内外関係機関等との交流及び協力
 - ・国内関係機関及び海外関係機関との協調体制構築
7. 前各号に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な事業

4. 具体的実施事項

第5次中期計画5大テーマの具体的実施事項

- 1) 「安全品質の追及活動」の推進
 - ① LED照明など新たな負荷に対する点滅器の開閉性能に関する課題明確化
 - ②電安法技術基準解釈別表第四での白熱灯に代わる、開閉試験方法の検討（ハロゲンランプ）
 - ③電安法技術基準解釈別表第四「配線器具」の遠隔操作の緩和検討
 - ④電源コードの安全性向上（二重被覆の推奨）
 - ⑤ユーザへの誤使用防止啓発活動の推進
- 2) 「安全・点検リニューアル活動」の推進
 - ①安全点検PR活動の推進
 - ・「配線器具の日」行事（2018年11月）首都圏（11月7日開催）、名古屋、大阪（11月9日開催）の3地区で実施
 - ・JECA FAIR 2018 電設工業展へ出展（2018年5月23～25日 インテックス大阪）
 - ・ホームページの有効活用

② 「交換の目安」の訴求

- ・普及・啓発委員会で、住宅盤、配線器具の取替え交換需要を掘り起こすため、「スイッチ・コンセントは10年」「住宅分電盤は13年」「テーブルタップは3～5年」のパンフ作成。

③ 感震機能付き住宅盤の普及

- ・感震機能付き住宅盤を広く周知し、自治体等の補助金制度の制定支援などで普及を図る。

④ 電源コードの寿命の訴求

- ・電源コードからの事故削減のため、JWD-T12「一体成形プラグ指針」に基づき電源コードの設計標準使用期間の考え方を電気機器メーカーに訴求する。

⑤ 配線器具の適切な設置個数・設置場所の提案検討

- ・家具に隠れるコンセントを配慮したコンセント設置個数の増加提案の理論武装
- ・スマートホンなど増加する充電機器に対し適切なコンセントの数、場所、高さなどの提案

⑥ 家電 PL センター情報交換会

- ・配線器具、住宅盤の事故情報の共有化。

3) 「環境対応推進活動」の推進

- ① 電気自動車充電インフラに関し、経済産業省・国土交通省と連携し普及を図る。

- ② 環境関連情報の発信を実施

- ③ 技術講習会の実施（東京地区と名古屋地区）

- ・2017年度、住宅盤専門委員会の名古屋地区での技術講習会と大阪地区の技術講習会を統合した結果を総括し、統合を継続するかを含め検討する。

- ④ 施設見学会の実施

- ・会員会社にとって関心の高い施設の見学会を企画する。

4) 「標準化推進活動」の推進

- ① 新 JIS C 8300 「配線器具の安全性」の制定と整合規格としての採用。

- ・電気用品技術基準解釈の将来の廃止に備え、現行の配線器具が製造・販売できるよう、別表第四「配線器具」の技術基準解釈の内容を JIS 化し、整合規格として採用して頂く。

- ② JIS C 8281-1 「家庭用及びこれに類する用途の固定電気設備用スイッチ第1部：一般要求事項」の改正原案作成。

- ③ JIS C 8328 「住宅用分電盤」の改正原案作成

- ④ JIS T 1021 「医用差込接続器」の改正案作成（電気設備学会と連携）

- ⑤ JIS C 8201-3 「低圧開閉装置及び制御装置－第3部：開閉器，断路器，断路器用開閉器及びヒューズ組みユニット」改正準備

- ⑥ JWDS 0007 付2 「感震機能付住宅用分電盤」改正検討

- ⑦ JWDS 0007 付3 「避雷機能付住宅用分電盤」改正検討

- ⑧ JWDS 0028 「電源プラグの耐トラッキング性」廃止検討

- ⑨ IEC 国際会議への委員派遣

- ・IEC SC23B の作業会（MT4）へ委員を各2名派遣する。

（2018年4月 カナダ トロント）

- ・IEC TC23 プレナリー会議へ委員を各2名派遣する。

（2018年10月 韓国 プサン）

⑩ データセンタ用の直流400V系の機器用ケーブルのIEC提案準備（電気設備学会と連携）

⑪ 日配工規約 JW-K013「標準化に係る産業財産権の取扱い規約」の見直し

5) 「新規分野開拓活動」の推進

・顧客に、新たな満足を与えることができる分野を開拓する。

① 企画委員会にて、新規分野の検討を行う。

② 専門委員会にて、既存製品が淘汰される状況を想定し、置き換わるものへ移行を検討する。
特に、危機感のあるIoT時代の点滅器の将来構想検討（技術委員会）

5. その他

・住宅盤認定審査委員会（2回/年）工場立ち入り調査（1回/年）

・普及啓発委員会へ普及啓発実行小委員会を統合する。

・日配工会報の発行（3回/年）（6月、10月、1月）

・日配工需要予測の算出（2回/年）（1月、5月）

・住宅盤専門委員会の三団体（キャビネット工業会、盤標準化協議会、日配工）情報交換会参画

・照明4団体事務局連絡会（照明工、照明学会、LED照明推進協議会、日配工）参画

・日配工卓上カレンダー作成、配布。

以上